

## 英語の授業を活気づけるアクティビティー 2 —Speaking Plus編—

磯 野 徹

### 要 旨

教職課程科目の1つである授業構成法（英語）は、教師役の学生が模擬授業を行い、生徒役となった学生はその模擬授業に関するレポートを提出する、という形式で行っている。この授業の中で、上記の模擬授業、レポート提出と同じくらい重点をおいているのが教員役の学生への事前指導であり、担当順がまわってきた学生には模擬授業前に必ず面談を行っている。その際に学生が持ってくる模擬授業案は、文法指導重視のもの、アクティビティーに重点をおいたもの等、多種多様であるが、いずれの場合も、1回目でパスすることは稀で、学生のほとんどは週に2、3回ほど打ち合わせの為に時間を割いて担当教員である私に相談、確認しに来ることになる。過去6年間で、このようなプロセスを経て発表された模擬授業案は150を超え、前回<sup>1</sup>はその中の一部、中学校1年生の文法事項を教える際のアクティビティーを紹介した。今回は、東京書籍発行のNEW HORIZONに収められている、Speaking Plusというコミュニケーション能力育成を目的としたパートを取り扱う際の模擬授業案の中から比較的優れていたものを紹介していく。

キーワード：授業構成法（英語）、Speaking Plus、アクティビティー、ペアワーク、コミュニケーション能力

## 1. 「実践的コミュニケーション能力」の育成と Speaking Plus

「実践的コミュニケーション能力」の基礎を養うことが中学校学習指導要領の目標として掲げられ、前述のように、NEW HORIZON では Speaking Plus のパートが主にその役割を担っている。このパートでは、様々な場面における2人の会話文が載せられており、ペアでそれぞれの役になって会話練習が出来るようになっている。

確かに、教科書に載っている文章をペアで会話することにより、コミュニケーション能力の基礎は養うことはできるだろう。しかし、この作業だけで「実践的な」コミュニケーション能力の基礎を養うことが出来るかどうかはかなり疑問である。例えば、後述する「道案内」の場面の会話文では、Aさんが道を聞いたら、Bさんは常に、全く困った様子もみせずスラスラと行き方を教えてくれる。しかし、実際の場合、道を聞いた最初の人親切に目的地までの道順を全て教えてくれる、という幸運なケースはそれほど多くはない。同様に、「～にさそう」場面では、実際の会話においては、自分の都合がつかずに断らざるをえなかったり、相手に断られたりすることは多々ある。実際にこのような場合に遭遇した場合、上記のような練習、つまり、ペアの相手が次に何と言うかわかっていて、ただ機械的に教科書に載っている会話文の反復練習しかおこなっていない学習者は、どのように会話を続けていかわからず、そこで完全に会話がストップしてしまうことが往々にある。

幸いなことに、Speaking Plus の Tool Box には、様々な状況を想定した表現がいくつか掲載されている。授業構成法（英語）の授業において、Speaking Plus のパートを模擬授業の題材に選んできた学生には、上記の事を説明し、ただ教科書に載っている文をペアで読んで終わるようなアクティビティーではなく、ペアの相手がどう答えるかわからない状況を作り出し、話し手はその答えに従った最適な会話を行えるような能力を養うアクティビティーを考えるように指導している。

今回は、上記の要求をある程度クリアした、Speaking Plus のパートをベースにしたアクティビティーを4つ紹介していく。

## 2. Speaking Plus に出てくる場面設定

NEW HORIZON では、Speaking Plus において、

### [1年生]

「忘れ物一話しかける、聞き返す、お礼を言う」

「道案内一乗り物での行き方をたずねる・教える」

「電話の会話—電話の応答, 招待する」

「ちょっとお願い—許可を求める, 依頼する」

## [2年生]

「先生にお願い—ていねいに許可を求める・依頼する」

「電話の会話—取り次ぎを頼む」

「病院で—体の不調をうったえる」

「道案内—道順をたずねる・教える」

「買い物—買い物をする, 申し出る」

## [3年生]

「コンサートに行こう—さそう, 提案する」

「食卓で—ものをすすめる」

「道案内—乗り物での行き方をたずねる・教える」

「電話の会話—申し出る, 伝言を頼む」

という場面が設定されている。「道案内」、「お願い」、「電話での会話」等、同じような場面の設定が少しずつレベルを上げながら繰り返し提供され、中学生が3年間の英語の授業を通して、これらの場面での英語コミュニケーション能力を獲得できるように工夫されている。

この中で、「道案内」は比較的ペア同士の間でインフォメーションギャップを作りやすく、この單元においては多くの教師の方々が既にペアワーク、グループワークを実践されていると思われるので、今回は「道案内」以外の場面設定のもとで行うアクティビティー案を紹介していく。

### 3. 「電話の会話—電話の応答, 招待する」(NEW HORIZON 1, p.80)<sup>2</sup>

ここでは、下記の会話のように、リサがビンをパーティーに誘う場面が設定されている。

B: Hello?

L: Hello, Bin? This is Lisa.

B: Are you free on Saturday? We're planning a party.

B: Yes, I'm free. What time?

L: How about noon?

B: OK. See you then. Goodbye.

L: Bye.

ここでは、ペアの一方がピン役、もう片方がリサ役になり、ペアで会話練習をすることにより、パーティーへ招待する、その招待を受ける等の英語表現は習得することができる。しかし、実際の会話では、都合により招待を断らないといけない場合も多々ある。そして何よりも、相手が“Yes, I'm free.”と答えるのがわかっている状況で、“Are you free on Saturday?”という、相手を招待する表現を反復練習しても、ただ機械的で面白みに欠け、十分な学習効果が得られるかどうかは疑わしい。

今回は、この会話文をベースにしながらも、誘った相手が招待を受けてくれるかどうかわからない、という現実に近い状況を作り出すことによって、様々な状況に適應できる会話能力を養うことを目的としたアクティビティを紹介する。

#### [準備]

ペアワークの会話練習時に使用する参考資料1のようなワークシートと、参考資料2のような予定表(A～Dまで4種類)を作る。今回は紙面の都合上、予定表Aしか載せていないが、予定表A～Dは何曜日の何時に予定が入っているかはある程度バラバラになるように作成する為、この予定表をランダムに1枚ずつ生徒に配布することにより、ペアワーク時に、自分の空いている時間に果たして誘う相手も予定が入っていないかどうか(=誘いを受けてくれるかどうか)は誘ってみるまでわからない、という状況を作り出すことができる。

#### [指導]

- (1) 教科書の Step 1, Step 2 まで進め、モデル対話をペアで練習させる。
- (2) 上記のワークシートと4種類の予定表のうちの1つを1枚ずつ配布し、① 配布された予定表は皆ばらばらで、それぞれ予定の入っているパターンが異なること、② 自分の予定表の空いている曜日日時しか相手を誘えないこと、③ 誘われた方は自分の予定表を確認し、予定が何も入っていないければ誘いを受け、予定が入っている場合は誘いを断る、という3点を説明する。
- (3) 生徒一人を誘う側に指名し、教師は誘いを受ける側になり、生徒と教師間で、「誘いを受ける場合」と「誘いを断る場合」の2パターンのモデルを生徒全員に提示する。
- (4) 基本は二人一組のペアワークであるが、あらかじめ四人をひとまとまりにしておく、

## 英語の授業を活気づけるアクティビティー 2

横同士のペアワークが終わったら、今度は前後同士、次は斜め同士、そしてまた横同士に戻る、という様にペアの相手を変えていけば、席を移動しなくてもスムーズにペアを変えながらペアワークを行うことができる。

- (5) 上記でも少しふれたが、各ペアのワーク内容は次の通りである。まずBさんが自分の予定表を確認し、空いている時間を見つけ、“eat breakfast”, “go shopping”等、その時間に適した行為を一緒にしよう、とAさんを誘う。今回の場合、どの行為に誘うかは問題ではないので、どれを選んでも可とする。誘われたAさんは、自分の予定表を確認し、誘われた曜日日時にも何も予定が入っていなければ、「予定が空いていて誘いを受ける」方の会話パターンを、予定が入っていれば「予定があるので誘いを断る」方の会話パターンに従って会話を進めていく。
- (6) BさんからAさんへの勧誘が終わったら、今度はAさんがBさんを誘う番になり、それも終わったら上述したように、前後同士、斜め同士、とペアをかえながら会話をペアで練習していく。
- (7) 最後に、何人誘えたかを確認し、一番多くの友達を誘えた生徒が優勝。

上記の案だと、1回のペアワークでお互い誘う機会は1回ずつ保障されているが、じゃんけんで勝った方しか誘えない、というルールを設けても面白いかもしれない。なお、このアクティビティー案を2011年に行われた教員免許講習の場で紹介したところ、おおむね好評ではあったが、「中学校1年生対象のアクティビティーとしては複雑すぎるので、選べる曜日日時をもう少し減らした方がよいのではないか」とのご意見を多くいただいたことを報告しておく。

### 4. 「ちょっとお願い—許可を求める, 依頼する」(NEW HORIZON 1, p.90)<sup>3</sup>

1年生の後半, Unit 10で助動詞のcanが登場することもあり、ここでは許可を求めたり、依頼をしたりする場面が設定され、“Can I ~?”と“Can you ~?”という表現に焦点が置かれている。教科書には、Step 1, Step 2, Optionと活動内容が並んでいるが、すべて相手が許可する(しない)、依頼を受け入れる(受け入れない)があらかじめ分かった上での活動内容になっているため、ただ教科書に提示された文を交互に読みあうだけの機械的な作業になってしまう可能性がある。

また、学生とアクティビティー案を考えている時にいつも頭を悩ますのが、教師がいかにそのアクティビティーに参加するか、ということである。ペアワーク、グループワークを生徒同士にさせて、教師は机間巡視をしながら適宜指示を出す、というのでもいいが、

やはりできるなら生徒と一緒に教師もアクティビティーに参加したいところである。

上記2つの問題を上手に解決したアクティビティー案を学生が考えてきたので、ここで紹介したい。

### [準備]

参考資料3に載せたような、“Can I～?” や “Can you～?” という文章が10ほど載っているワークシートを準備する。文章をよく見てみるとわかるが、授業中に行うのには好ましくないものがいくつか混じっている。

### [指導]

- (1) 教科書の Step 1 と Step 2 まで進め、“Can I～?” と “Can you～?” の表現の定着をはかる。
- (2) 参考資料3に載せたワークシートを配り、ペアを作った後で、載せてある文章を相手に質問し、“Yes, I can. / No, I can't” か “Yes, you can. / No, you can't.” で答えてもらう、というペアワークを行う。このペアワークの狙いはワークシートに載せてある “Can I～?” と “Can you～?” の文章に慣れることなので、ペアの相手が “Yes,～.” で答えようが、“No,～.” で答えようが関係なく進めていく。
- (3) 次に4人一組になり、先の疑問文を今度はグループで教師に質問することになるのだが、その前に、グループで個々の質問に対し教師が “Yes,～.” といつか “No,～.” といつかを予想し、その予想が当たっていたらグループでポイントゲット、予想が外れていたらポイントマイナスになる、というアクティビティー内容を説明し、アクティビティーを開始する。
- (4) すべての質問が終わって、合計点数の一番高かったグループを優勝とする。

このアクティビティーにおいて、基本的に教師は、授業中に行ってもいいことには “Yes,～.” で、授業中行うことが好ましくないものには “No,～.” という様に答えていくが、たまにひっかけで、“Can you read the textbook?” に対して “No, I can't. I'm tired.” と答えたり、“Can you close the window?” に対して “No, I can't. It's far from me.” とか答えたりすると単調にならずに盛り上がるかもしれない。

このアクティビティーを発表したグループは、教師に質問するグループを挙手制にして競わせ、質問したグループにはボーナスポイントを与えていた。もう一つの方法として、質問の数をもう少し増やし、各グループ1つずつ順番に質問させる。そして、質問したグループは自分たちの予想が当たっていたらポイント2倍、というルールで行うと、どれを

質問するかグループ内で相談する機会もできるのでいいかもしれない。

## 5. 「電話の会話—取り次ぎをたのむ」(NEW HORIZON 2, P.48)<sup>4</sup>

2年生になり、“can”以外の助動詞が続々と登場し、この場面では、“May I speak to～, please?”という表現を用いての電話の会話を練習することができるようにデザインされている。3年生の「電話の会話—申し出る、伝言を頼む」(p.66)で、話したい相手が不在のパターンが出てくるが、今回のTool Boxにも“Sorry, but he’s out now.”や“OK. I’ll call back later.”等の表現が記載されているので、今回から、実際の電話の様に、「～は、今いるかな、どうかな……」と少しドキドキしながら電話をかける状況を作り出したい。

### [準備]

参考資料4のような、話したい相手がいた場合と、いなかった場合とで、会話の流れが異なることを示したワークシートを用意する。

### [指導]

- (1) モデル対話をペアで練習する。
- (2) 生徒たちを、電話をかけるBパート(女子生徒)と、電話をうけるAパート(男子生徒)の2つのグループにわける。アクティビティー中、Aパートの生徒たちは間隔をあけて椅子に座って待ち、提示された3つの名前の中から(今回の場合は、Mike, John, Paul)の中から好きなものを各自選ぶ。
- (3) Bパートの生徒は座っているAパートの生徒のところへ行き、シートに記載された3つの名前の中から1つを選び、その人に電話をかけたという設定で会話練習を始める。もしお互い選んだ名前が一致していたらシートの左側の会話文に、一致しなかったら右側の会話文を行う。
- (4) 一人との会話練習が終わったら、Bパートの生徒は他のAパートの生徒のところへ行き、同じことをする。これを何度か繰り返していくが、一度会話練習を行った相手とは再び会話練習を出来ないこととする。ある程度時間が経過したら、選ぶ名前を女性のもんに変えて、AパートとBパートを交代してもいい。
- (5) 最終的に、より多く目的の人と話せた生徒を優勝とする。

極めてシンプルなアクティビティー内容なので、もう少し手の込んだものにした場合は、話したい相手につながった場合の会話文の後半が相手を誘うシチュエーションになっ

ているので、今回最初に紹介した「電話の会話—電話の応答, 招待する」(NEW HORIZON 1, p.80) のアクティビティー内容を、復習もかねてその部分に組み込んでもいいかもしれない。

## 6. 「食卓で—ものをすすめる」(NEW HORIZON 3, p.38)<sup>5</sup>

このパートは、「コンサートに行こう—さそう, 提案する」(p.28) で登場した “Would you like to ~?” に引き続いて, “Would you like ~?” で人にものを勧める表現と, その勧めを受け入れたり断ったりする表現を学べるようにデザインされている。

A: Please help yourself.

B: Thank you.

A: Would you like some more?

B: Yes, please. It's delicious.

A: What would you like to drink?

B: May I have some water?

A: Of course. Would you like another piece of cake?

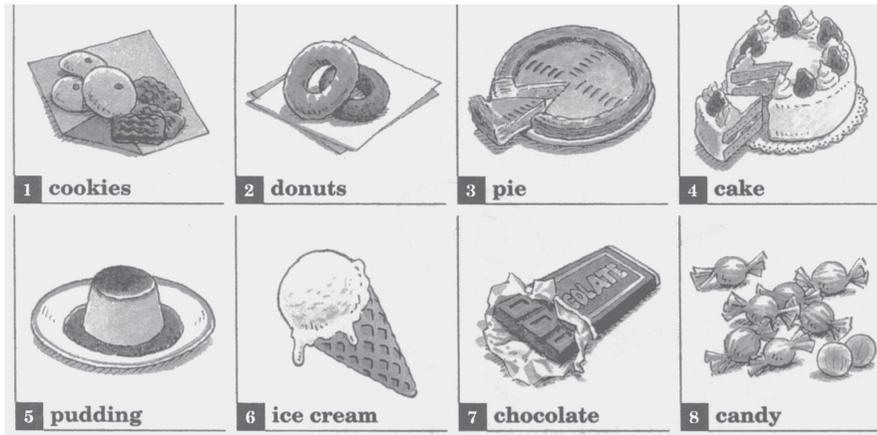
B: No, thank you. I'm full.

繰り返しになるが、この場面においても、相手がどのように答えるか分かった上で, “Would you like ~?” の表現を機械的に音読していくのと、相手がどのように答えるか分からない状況で、相手に “Would you like ~?” と質問してみるのとでは、やはりこの表現の身に付き方に差が出てくると考える。

### [準備]

様々なデザートの絵が描かれたカードもしくは一覧表を準備する。NEW HORIZON 1 の巻末 Tool Box に次のような8種類のデザートの絵が掲載されているので、それらを使用してもよい。

英語の授業を活気づけるアクティビティー 2



(NEW HORIZON, English Course 1, p. 120)

[指導]

- (1) モデル対話をペアで練習する。
- (2) デザートの絵が描かれたカード、もしくは一覧表を生徒に配り、今回のように8種類のデザートが描かれているなら、「大好きなもの3つ」、「好きなもの3つ」、「それほど好きでないもの2つ」という感じで各自分類させる。
- (3) そして再びペアワークに移るが、今度は、先の会話文の最後の2行だけは、下記のようにし、相手が大好きそうなものを推測して発話を行うようにする。

A: *Of course. Would you like more \_\_\_\_\_?*

↓

[勧められたもの大好きなものだった場合]

B: *Yes, please. That's my favorite!*

[勧められたものが好きなものだった場合]

B: *Yes, please. That's delicious.*

[勧められたものがそれほど好きでないものだった場合]

B: *I'm sorry. I'm full. I can't eat it.*

Aの役を担った生徒がBの役を担った生徒に「大好きなもの」を勧められた場合は2ポイント。「好きなもの」を勧められた場合は1ポイント。「それほど好きでないもの」を勧めてしまった場合はマイナス1ポイント、とする。

- (4) 横同士のペアワークが終わったら、今度は前後、斜め同士とペア相手を変えながらアクティビティーを進めていき、最終的に一番ポイントが多かった生徒が勸め上手ということによって優勝。

もし、cake とか ice cream 等に人気が集まりそうな場合は、「同じものを連続で勧めてはいけない」というルールを設けたり、教師側の方で機械的にデザートのお好みの振り分けたりしてしまう、というのも一つの手である。そして、もし時間に余裕があるなら、“May I have seconds?” や “That smells good” 等の Tool Box に記載されている表現も会話の中に取り入れていきたい。

## 7. おわりに

今回は、NEW HORIZON に収められている Speaking Plus というパートを行う際の模擬授業案を4つ紹介した。アクティビティーの面白さ、実際の会話に近い状況を作り出す、という点においては今回紹介したものよりも優れていた模擬授業案もあったが、アクティビティーのルール説明等がかなり複雑な為、中学生対象のアクティビティーとしては実用的ではないと判断し、紹介を見送った。それらも、簡略化する目処が立ったなら、またの機会に紹介したいと思う。

## 注

1. 磯野 徹 「英語の授業を活気づけるアクティビティー—中学校1年生で習う文法編—」, 愛知大学語学教育研究室「言語と文化」第22号, pp.171-178, 2010.
2. この授業案は、2011年度の授業で、判治早矢香さんと山本歩美さんによって発表された。
3. この授業案は、2011年度の授業で、柴田彩花さんと山口智尋さんによって発表された。
4. この授業案は、2008年度の授業で酒井良昌君と富田綾子さん、2009年度の授業で伊木アンドレ君と金田紗織さんによって発表された。
5. この授業案は、2010年度の授業で、井口綾菜さんと小原優里菜さんによって発表された。

## 参考図書

NEW HORIZON English Course 1～3, 東京書籍, 2006.

(参考資料 1)

## 電話で遊びに誘ってみよう♪

### 1. 相手を確認する

A: Hello?

B: Hello, (相手の名前)? This is (自分の名前).

A: Hi, (相手の名前).



### 2. 相手を誘う

B: Are you free on (曜日)?

A: Maybe. What time?

B: How about ( morning / noon / evening )?

Let's (プランを提示して誘う)



(予定が空いていて誘いを受ける)

A: OK, See you then. Good Bye!

B: Bye.

(予定があるので誘いを断る)

A: Oh, sorry, I'm busy.

B: Oh, I see. Next time!

A: Bye.

(参考資料 2)

## Let's Make a Plan!!

A	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday	Sunday
Morning		Study English	Study English			Study English	
Noon	Shopping with my mother				Club Activity		Club Activity
Evening			Volunteer	Volunteer	Club Activity		Club Activity

<Morning Plan>

- eat breakfast
- play tennis
- play a video game

<Noon Plan>

- eat lunch
- go swimming
- go shopping

<Evening Plan>

- eat dinner
- go to movies
- go to karaoke

(参考資料 3)

○○してくれますか？

○○してもいいですか？

窓を開けたいときは、どのように言いますか？

自分が許可を得るときは Can ( ) open the window?

人をお願いする時は Can ( ) open the window?

\*より丁寧に人をお願いする時は、Canの代わりにCouldを使います

《アクティビティー》

1. 隣同士で下の表の質問文を質問し合おう。
2. 4人1組になって先生の答えを予想しよう。
3. 予想できたら先生に質問してみよう！  
先生の答えとあったいたらポイントゲット！ 間違っていたらマイナス…  
たくさん質問したチームにはいいことがあるかも♪

	Questions	Points	Yes/No	Total
1	Can you open the door?	15		
2	Can I move my desk?	15		
3	Can you say it again?	10		
4	Can you finish this class early?	10		
5	Can you read the textbook?	10		
6	Can you close the window?	10		
7	Can I wash my hands?	10		
8	Can I ask a question?	5		
9	Can I drink water?	5		
10	Can I use my cellphone?	5		

合計

点

(参考資料 4)

## Make a Call ♪

A の人は (Mike, John, Paul) の中から毎回名前を一つ選んでください!

～電話の会話～

A: Hello?

B: Hello. This is 自分の名前 .

May I speak to (Mike, John, Paul), please?

\* B の人はカッコの中から A の人が選んだ名前を当ててみよう!

**(選んだ名前が一致したら)**

A: This is A が選んだ名前 .

B: Hi, A が選んだ名前 .

A: Hi, B の名前 . What's up?

B: I'm going to Shin's to play video games.

Why don't you come?

A: OK. See you there.

B: OK. Bye.

**(選んだ名前が一致しなかったら=留守)**

A: Sorry, but he's out.

B: OK. I'll call back later.